

水田営農の維持に向けた省力化を考えよう

～栄町酒直南部地区どらまめ移植機実演会の開催～

印旛農業事務所改良普及課 令和6年7月12日発

栄町酒直南部地区は、担い手の高齢化が進む中、水田営農を維持していくために、基盤整備事業を導入するとともに、集落営農組織を設立して水田における高収益作物の「どらまめ（黒大豆の枝豆）」の生産に取り組んでいます。この「どらまめ」栽培では、苗の移植作業の労力負担が課題となっています。

農業事務所では、労力負担を軽減し営農を持続的なものとするため、（株）クボタの協力のもと7月3日に移植機実演会を開催しました。生産者と関係機関25名が参加しました。

実演会では、実際に生産者が機械操作を体験し、移植機の省力性を実感することができました。生産者からは「今までより早いし楽だ」「補植作業が少なく良い」「導入すれば規模拡大できる」等、省力技術の導入について意欲的な感想が多く聞かれました。

農業事務所では、今後も水田営農の維持に向けて関係者と連携して支援していきます。



移植機を使った作業を体験しました



早く、楽に移植
できました